

小田英郎教授略歴

- 昭和八年三月三〇日 東京都に生まれる
- 昭和二六年三月 東京都立青山高等学校卒業
- 昭和三二年三月 慶應義塾大学法学部政治学科卒業
- 昭和三六年三月 慶應義塾大学大学院法学研究科政治学専攻修士課程修了（法学修士）
- 昭和三七九年四月 慶應義塾大学法学部助手（大学院博士課程在籍のまま）
- 昭和三九年三月 慶應義塾大学大学院法学研究科政治学専攻博士課程単位取得・満期退学
- 昭和四〇年四月 慶應義塾大学法学部専任講師
- 昭和四三年四月 慶應義塾大学法学部助教授
- 昭和四三年九月 米国ボストン大学アフリカ研究センター訪問研究員（昭和四四年六月）
- 昭和四六年九月 法学博士（慶應義塾大学）の学位取得
- 昭和四七年一〇月 慶應義塾賞受賞（著書『現代アフリカの政治とイデオロギ―』新泉社・により）
- 昭和四八年四月 慶應義塾大学法学部教授
- 昭和四九年四月 慶應義塾大学大学院法学研究科委員を兼ねる
- 昭和五九年七月 慶應義塾大学地域研究センター所長を兼ねる（平成元年九月）
- 平成九年三月 選定年制により慶應義塾を退職
- 平成九年四月 慶應義塾大学名誉教授
- 同月 敬愛大学国際学部長・教授

慶應義塾体育会関係

昭和四七年四月 慶應義塾体育会アメリカンフットボール部長（昭和六二年三月）
昭和六三年四月 慶應義塾体育会野球部長（平成九年三月）

他大学への関与

東京歯科大学非常勤講師（「政治学」昭和三八年度、昭和四一年度）
明治学院大学法学部非常勤講師（「アフリカ事情」昭和五一年度）
北九州大学法学部非常勤講師（集中講義「アフリカ研究」）「アフリカ国際政治論」昭和五三年度、昭和六一年度、平成二年度、平成六年度）

東京都立大学法学部非常勤講師（「アフリカ現代史」昭和五四年度、昭和六〇年度）

東京大学法学部非常勤講師（「アフリカの政治」昭和五六年度、昭和五九年度、昭和六三年度、平成四年度）

青山学院大学文学部非常勤講師（「アフリカ現代史」昭和五九年度、昭和六一年度）

放送大学客員教授（「比較政治Ⅱ／第三世界の政治」昭和五七年度、平成四年度）

神戸大学法学部非常勤講師（集中講義「第三世界論」昭和六〇年度）

京都大学アフリカ地域研究センター運営委員（昭和六二年度、平成七年度）

早稲田大学政治経済学部非常勤講師（「政治学研究／アフリカの政治」平成四年度、八年度）

神戸大学大学院国際協力研究科非常勤講師（集中講義「アフリカ政治論」平成七年度、現在に至る）

学会関係

日本アフリカ学会理事（昭和五三年四月、現在に至る）

日本アフリカ学会副会長（平成二年四月、平成八年三月）

日本アフリカ学会会長（平成八年四月～現在に至る）

日本国際政治学会理事（平成四年一〇月～平成六年九月）

日本ナイル・エチオピア学会（現・評議員）

アジア政経学会（元・評議員）

日本政治学会

社会的活動

東京六大学野球連盟理事（昭和六三年度～平成八年度）

東京六大学野球連盟理事長（平成元年度、平成七年度）

全日本大学野球連盟常務理事（平成六年度～現在に至る）

全日本大学野球連盟副会長（平成八年度～現在に至る）

アフリカ基金運営委員（昭和五九年四月～現在に至る）

アフリカ支援基金運営委員（平成八年六月～現在に至る）

野間アジア・アフリカ奨学金選考委員（現在）

アジア教育文化交流協会評議員・奨学生選考委員（現在）

佐倉市国際文化大学運営委員（現在）

（平成九年八月三十一日現在）

小田英郎教授主要著作目録

一、著書

〔単著〕

『現代アフリカの政治とイデオロギー』

同 増補版

『アフリカ現代史Ⅲ 中部アフリカ』（世界現代史⑮）

『アフリカ現代政治』

〔編著書〕

『七〇年代南部アフリカの政治・経済変動』

『比較政治Ⅱ 第三世界の政治』

『第三世界の政治―比較地域政治論』

『アフリカ・ラテンアメリカ関係の史的展開』（矢内原勝と共編）

『アフリカの政治と国際関係』（講座 アフリカの二一世紀③）

『アフリカ その政治と文化』

『中東・アフリカ現代政治』（富田広士と共編）

『アフリカ』（国際情勢ベーシックシリーズ④）

〔共著書〕

新泉社 昭和四六年

慶應通信 昭和五〇年

山川出版社 昭和六一年

東京大学出版会 平成元年

アジア経済研究所 昭和五六年

旺文社 昭和五七年

日本放送出版協会 昭和六三年

平凡社 平成元年

勁草書房 平成三年

慶應通信 平成五年

勁草書房 平成五年

自由国民社 平成八年

『世界の議会⑩ アフリカ』

〔共同監修〕

『アフリカを知る事典』

平凡社 平成元年

〔事典・ハンドブック類〕

『中国政治経済総覧』

アジア政経学会 昭和三十九年～昭和四五年

『中国総覧』

アジア調査会 昭和四十六年～昭和五〇年

同

霞山会 昭和五三年～昭和五九年

『ブリタニカ国際大百科事典』

ティビーエス・ブリタニカ(株) 昭和四七年～昭和五〇年

『ブリタニカ国際年鑑』(一九七五年版～一九九二年版)ティビーエス・ブリタニカ年鑑(株) 昭和五〇年～平成四年

『国際年報』一三巻～二二巻

日本国際問題研究所 昭和五〇年～昭和六二年

『現代政治学の基礎知識』

有斐閣 昭和五〇年

『世界歴史 図詳ガッケン・エリア教科事典』

学習研究社 昭和五一年

『現代用語の基礎知識』(一九七九年版～)

自由国民社 昭和五四年～

『世界伝記大事典』

ほるぷ出版 昭和五六年

『西洋人名事典』(増補版)

岩波書店 昭和五六年

『アフリカハンドブック』

講談社 昭和五八年

『国際政治経済の基礎知識』

有斐閣 昭和五八年

『大百科事典』

平凡社 昭和五九年～昭和六〇年

『日本大百科全書』

小学館 昭和五九年～昭和六〇年

『平凡社 百科年鑑』(一九八六年版)

『国際教育事典』

『現代政治学事典』

『日本史大事典』

『国際政治経済辞典』

平凡社 昭和六一年

アルク 平成三年

ブレーン出版 平成三年

平凡社 平成四年

東京書籍 平成五年

〔翻訳書〕

〈単独訳書〉

G・W・シェバード『アフリカ民族主義の政治的構造』

慶應通信 昭和四一年

J・マケ『アフリカ——その権力と社会』

平凡社 昭和四八年

〈共訳書〉

H・L・ボアーマン編『現代中国——その実体と分析』

日本外政学会 昭和三四四年

B・I・シュウォルト『中国共産党史——中国共産主義と毛沢東の台頭』(石川忠雄と共訳)

慶應通信 昭和三九四年

F・ノサール『発信地——北京』(石川忠雄と共訳)

時事通信社 昭和三九四年

D・E・アプター編『イデオロギーと現代政治』

慶應通信 昭和四三年

二、論文

〔単行書収録論文〕

『現代アフリカの政治と軍部』

(慶應義塾大学地域研究グループ編『変動期における軍部と軍隊』慶應通信、昭和四三年)

『アメリカのアフリカ政策——ケネディー政権にいたるその形成と展開』

〔慶應義塾大学地域研究グループ編『アメリカの対外政策』鹿島出版会、昭和四六年〕
「両大戦間期アフリカのナショナリズムと権力構造——二つの国際主義との相互関連性を中心として」

（江口朴郎編『両大戦間の国際政治とアジア・アフリカ』アジア経済研究所、昭和四八年）
「アフリカナイゼーションと国家建設——政治的・軍事的側面を中心として」

（外務省中近東アフリカ局アフリカ課『アフリカナイゼーションの政治・軍事および経済的側面』、昭和四九年）
「中国の中東・アフリカ政策——その形成と展開」

（入江啓四郎・安藤正士編『現代中国の国際関係』日本国際問題研究所、昭和五〇年）
「現代アフリカの政軍関係」 （佐藤栄一編『政治と軍事——その比較史的研究』日本国際問題研究所、昭和五二年）

「アフリカの安全保障問題とアフリカ統一機構」 （佐藤栄一編『安全保障と国際政治』日本国際問題研究所、昭和五七年）
「アンゴラ内戦——その国際化と南部アフリカ情勢への影響」

（石川忠雄教授還暦記念論文集刊行委員会『現代中国と世界——その政治的展開』慶應通信、昭和五七年）
「現代アフリカの国際紛争——オガデン戦争の一考察」

（木戸蒨・蔵重毅編『第三世界と国際政治』晃洋書房、昭和五八年）
「南部アフリカ問題をめぐるアフリカ統一機構とフロントライン諸国」

（林晃史編『フロントライン諸国と南部アフリカ解放』アジア経済研究所、昭和五九年）
“Japan and Africa: Beyond the Fragile Partnership” (Co-author, K. Aoki) in *Japan's Foreign Relations: A Global Search for Economic Security*, eds. by R. S. Ozaki & Arnold, W., Boulder & London: Westview Press, 1985.

「国家の形成と民族」 （川田順造編『黒人アフリカの歴史世界』民族の世界史⑫、山川出版社、昭和六二年）
「国民形成論——アフリカの事例について」

（矢野暢編『地域研究』講座政治学Ⅳ、三領書房、昭和六二年）
「分離と統合の諸相——アフリカ」

(木戸蒨編『現代世界の分離と統合』講座国際政治③、東京大学出版会、平成元年)

「アフリカの解放運動とリビア」 (江口朴郎・板垣雄三編『交感するリビア』藤原書店、平成二年)

「九〇年代アフリカの政治と経済——民主化と自由化」

(小林薫編『エリア・スタディ』二一世紀へのニュー・マネジメント、第八巻、法令出版、平成五年)

「九〇年代南部アフリカ諸国の政治体制と民主化」

(林晃史編『南部アフリカ諸国の民主化』アジア経済研究所、平成五年)

「日本のアフリカ政策——その一考察」

「アメリカ合衆国のアフリカ政策——冷戦期からポスト冷戦期へ」 (川端正久編『アフリカと日本』勁草書房、平成六年)

(林晃史編『冷戦後の国際社会とアフリカ』アジア経済研究所、平成八年)

「アフリカ諸国の独立」 (歴史学研究会編『解放の夢——大戦後の世界』講座世界史⑨、東京大学出版会、平成八年)

【雑誌論文】

「新疆をめぐる中ソ関係——盛世才の時期を中心として」

『法学研究』三四巻六号、昭和三十六年六月

「現代アフリカとパン・アフリカニズム——アフリカにおける主体性の問題を中心として」

『法学研究』三七巻四号、昭和三十九年四月

「アフリカ社会主義について」

『民主社会主義研究』五七号、昭和三十九年二月

「アパルトヘイトとアフリカーナー・ナショナリズム」

『法学研究』三八巻二号、昭和四〇年二月

「北京攻勢とアフリカの現実」

『自由』七巻一二号、昭和四〇年十二月

「Chinese policy versus the Realities of Africa,」 *Journal of Social and Political Ideas in Japan*, Vol. 4 No. 3, Dec. 1966

『法学研究』四〇巻二号、昭和四二年三月

「中華人民共和国のアフリカ政策」

『法学研究』四〇巻八号、昭和四二年八月

- 「新生諸国の政治と軍部——現代アフリカの軍・民関係を中心として」『世界経済』復刊一三五号、昭和四二年一月
- 「アフリカ社会主義の思想」『法学研究』四〇巻一二号、昭和四二年二月
- 「現代アフリカの政治とイデオロギー」『アフリカ研究』七号、昭和四三年一〇月
- 「マーカス・ガーヴィーとパン・アフリカニズム——ガーヴィー主義の一考察」『法学研究』四二巻六号、昭和四四年
- 「W・E・B・デュボイとパン・アフリカニズム——一九〇〇～一九一九年までの時期を中心として」『法学研究』（潮田江次先生追悼号）四三巻一〇号、昭和四五年一〇月
- 「前期パン・アフリカニズムの盛衰とアフリカ・ナショナリズム」『法学研究』（津田利治・宮崎澄夫・伊藤政寛教授退職記念号）四四巻三号、昭和四六年一〇月
- 「アメリカ合衆国のアフリカ研究」『アフリカ研究』一一号、昭和四六年九月
- 「政治的宗教としてのエンクルマイズム」『歴史学研究』三七八号、昭和四六年十一月
- 「アフリカにおける政治的潮流の変化について」『経済論壇』一七巻一二号、昭和四六年十二月
- 「合衆国におけるアフリカ研究の現状と黒人研究からの挑戦」『世界経済』二七巻二号、昭和四七年二月
- 「コミンテルンの戦略・戦術とサハラ以南のアフリカ・ナショナリズム」『法学研究』四五巻六号、昭和四七年六月
- 「移行期のパン・アフリカニズムについて——一九三〇年代から一九四〇年代前半の時期を中心として」『法学研究』四六巻四号、昭和四八年四月
- 「第二次大戦後におけるパン・アフリカニズム運動の展開について——マンチエスター会議からパン・アフリカニズムの祖国」ガーナの独立まで」『アジア経済』一五巻二号、昭和四九年二月
- 「現代アフリカにおける政治的潮流の変化とその発展方向について」『高校社会・政治経済・教育ノート』（学校図書株式会社）、昭和四九年五月
- 「現代アフリカの政治的潮流と圏内の国際政治——パン・アフリカニズム、バックス・アフリカーナ、OAU」

- 「クーデターの構造と軍部支配」
『国際問題』 一七三号、昭和四九年八月
- 「ポルトガル植民地の独立と南部アフリカの新動向」
『流動』 七卷三号、昭和五〇年三月
- 「非同盟主義とアジア・アフリカ」
『世界経済』 三〇巻三号、昭和五〇年三月
- 「アフリカの情勢と日本外交の課題」
『高校社会・政治経済・教育ノート』、昭和五〇年四月
- 「南アのデタント政策と南部アフリカ情勢の将来」
『公明』 一五九号、昭和五〇年七月
- 「第六回パン・アフリカ会議の概要とその意義について」
『アジア』 一一巻三号、昭和五一年二月
- 「アフリカ問題への視点——アンゴラ内戦、南部アフリカの解放、そしてOAU」
『アフリカ研究』 一五号、昭和五一年三月
- 「国際関係におけるアフリカの焦点——アンゴラから南部アフリカへ」
『アジア・クォーターリー』 八巻二号、昭和五一年四／六月
- 「アンゴラ以後のアフリカとローデシアの将来」
『アジア』 一一巻六号、昭和五一年七月
- 「南部アフリカ問題——その現状と将来」
『世界経済』 三一巻七号、昭和五一年七月
- 「ブラック・アフリカをめぐる米・中・ソの対立」
『三田評論』 七六六号、昭和五二年一月
- 「南部アフリカ問題の現状と将来」
『民族文化』 一四巻一号、昭和五三年六月
- 「アフリカの紛争と大国の介入」
『高校社会・政治経済・教育ノート』 昭和五三年五月
- 「現代アフリカの紛争と国際関係」
『日中経済協会会報』 六三三号、昭和五三年九月
- 「現代アフリカの紛争と安全保障」
『国際問題』 二二二二号、昭和五四年七月
- 「一九七〇年代における南部アフリカの政治変動と国際関係」
『国際政治』（日本国際政治学会） 六三三号、昭和五四年一〇月
- 「アフリカにおける国家建設とアフリカ性の問題について」
『アジア経済』 二〇巻二二二二号、昭和五四年一二月
- 「現代アフリカにおける社会主義とナショナリズム」
『国民国家の形成と政治文化』（日本政治学会年報 一九七八）、昭和五五年三月
- 『国際政治』（日本国際政治学会） 六五号、昭和五五年一月

- 『エチオピア革命、一九七四年』
- 『中東における政治的軍隊と軍部政権』
- 『現代アフリカの政治的潮流と政治体制』
- 『アフリカ統一機構解放調整委員会と南部アフリカの解放問題』
- 『パン・アフリカニズム運動と第六回パン・アフリカ会議』
- 『法学研究』五四卷三号（遠峰四郎教授退職記念号）、昭和五六年三月
- 『中東通報』二七七号、昭和五六年七月
- 『アジア労働運動資料』三二二号、昭和五七年二月
- 『アジア経済』二三卷九号、昭和五八年九月
- 『法学研究』（内山正熊教授退職記念号）五六卷三号、昭和五八年三月
- 『海外事情』三一巻七〜八号、昭和五八年七〜八月
- 『国際問題』二九六号、昭和五九年一月
- 『歴史評論』四二五号、昭和六〇年九月
- 『世界週報』昭和六〇年六月四日号
- 『国際問題』三一九号、昭和六一年一〇月
- 『アパルトヘイトとその歴史的背景』
- 『日本におけるアフリカ研究』
- （第八回日中学術交流会議の報告、一九八六年九月二九日〜三〇日 ホテル メトロポリタン）『公明』二九九号、昭和六一年一二月
- 『シヤバ紛争の一考察』
- 『法学研究』（石川忠雄教授退職記念号）六〇巻一号、昭和六二年一月
- 『三田評論』八八四号、昭和六二年八・九月
- 『現代アフリカにおける国家と国民——リベリアとエチオピア』
- 『第三世界の政治発展』（日本政治学会年報 一九八六）、昭和六三年一月
- 『現代アフリカの政治と国際政治——その基本問題』

『国際政治』（日本国際政治学会）八八号、昭和六三年五月

『外交フォーラム』二巻六号、平成元年六月

『法学研究』六三巻七号、平成二年七月

「現代の国際政治とアフリカの現実」

「リビア・チャド合邦問題とOAU」

「南アフリカのアパルトヘイト問題」

『日本アフリカ学会会報 別冊』（日本アフリカ学会創立二五周年記念講演特集号）、平成三年三月

「現代アフリカ諸国と民主化のうねり」

『三色旗』五三一号、平成四年六月

「南部アフリカにおける民主化の問題について」

『アジア経済』三三巻八号、平成四年八月

「アフリカ・ラテンアメリカ関係とパン・アフリカニズム——その過去と現在」

『月刊 アフリカ』三三二巻一二号、平成四年一二月

「九〇年代南アフリカ共和国の民主化過程について——民主南アフリカ会議から全人種選挙まで」

『法学研究』（太田俊太郎教授退職記念号）六八巻二号、平成七年二月

「ポスト冷戦期アフリカの民族紛争」

『三田評論』九七一号、平成七年七月

「タンザニア・ウガンダ戦争とアミン政権の崩壊——二国間戦争から解放戦争へ」

『法学研究』（賀川俊彦教授退職記念号）六八巻一〇号、平成七年一〇月

「アフリカの民主化と市場経済化」

『エコノミスト』（臨時増刊 '97世界紛争・テロ事典）平成九年一月二七日

【学会展望・資料等】

「一九七二年の歴史学界・アフリカ」

『史学雑誌』八二編五号、昭和四八年五月

「一九七三年の歴史学界・アフリカ」

『史学雑誌』八三編五号、昭和四九年五月

「一九七四年の歴史学界・アフリカ」

『史学雑誌』八四編五号、昭和五〇年五月

「第六回パン・アフリカ会議の概要とニエレレ大統領の開会演説」

『法学研究』四八巻七号、昭和五〇年七月

「パン・アフリカニスト、ラス・マコンネンの横顔」

『アフリカ研究』一六号、昭和五二年三月

「J・K・ニエレレへアフリカにおける外国軍隊」

(翻訳と解説／井上一明と共同執筆) 『アフリカ研究』一八号、昭和五四年三月

「アフリカ研究二〇年の回顧と展望——政治学」

『アフリカ研究』(日本アフリカ学会創立二〇周年記念特集号・日本におけるアフリカ研究の回顧と展望) 二五号、昭和五八年三月

「一九八二年の歴史学界・アフリカ」

『史学雑誌』九二編五号、昭和五八年五月

「アフリカ研究の三〇年」

『アフリカ その政治と文化』(小田英郎教授還暦記念論文集) 慶應通信、平成五年

*書評、座談会、新聞記事、随想などはすべて省略

(平成九年八月三一日現在)